は、五月から六月にかけての田んぼが、見わたすかぎり緑のじゅうたんのようになる時が、大好きです。それを見ているとほっとするし、すがすがしい気持ちになります。海や山の自然を大切に守っていきたいです。

二つ目は、おとしよりが毎日楽しく安心してくらせる町になってもらいたいです。

例えば、老人ホームの中に、いつもお医者さんがいるとか、老人と子供達がいっしょに遊べるような機会を増やすとかして、毎日を楽しくすごしてもらえたらいいなと思います。いずれは、お父さんやお母さんや自分も老人になるんだから、おとしよりの気持ちになって、いろいろとやさしくしてあげたいと思います。

最後の一つは、この横芝町を、交通事故のない町にしたいと思います。

例えば、通学路と車道を分けてくれるとか、歩道には全部ガードレールをつけてくれるとか、自転車が通る道を作ったりしてほしいです。それと事故とかは、病気とちがって、一人一人が気をつければ、必ずふせぐことができると思います。もしも、横芝町が日本中で『交通事故のない町』として、しょうかいされたら、最高にうれしいです。

この三つが実現すれば、今まで以上にすばらしい横芝町になると思います。

私は、横芝町の五十才、六十才のおたん生日を大いに期待しています。

十年後の横芝町

上堺小学校6年
伊藤歩美さん

五年後、十年後と、横芝町はどう変っていくのだろう。

一年ぐらい前に私は、おばあちゃんに一枚の写真を見せてもらったことがある。その写真に写っていたのは昔の横芝町だった。一枚の写真からでも、昔の様子がよくわかる。道はせまくじゃり道で、建てものは木で作ってある。中にはわらの屋根の家もあった。木にはたくさんの鳥などがとまっていて、きれいな花もたくさん咲いていた。

それに対して、今は、道も広くなり、歩きやすいコンクリートの道路になって、家もコンクリート建てで、じょうぶな家が多くなってきている。しかし、その反面、木にとまっているはずの鳥もぜんぜん見られなくなってきた。

このままの状態でいくと、横芝町はどう変っていくのだろう。

私の考える五年後、十年後の横芝町は、このままでは、今でいえば東京のようになっている。高いビルが立ち並び、車がたくさん走っていて、鳥もちょうもほかの虫たちも、ぜんぜんいない横芝町になっていると思う。そして、人も二倍以上になって、緑などがぜんぜんなくなって、ゴミも捨てる所がなくなっていると思う。それだけでなく横芝町という名も、横芝市に変っていくのだろう。

お母さんも「五年後、十年後がどう変っていくかは、あなたたちの心がけしだいなんだよ」と言っていた。十年後、私たちのちょっとした心がけで、横芝町の緑が今よりも多くなっているのだろうか。それとも反対に、緑のぜんぜんない横芝町になっているのだろうか。

私は、緑のたくさんある横芝町にしたいと思う。私達が、「今やるべきことは何か」といつも疑問を持ち続けていけば、横芝町の自然はいつまでも伝わっていく。車がたくさん走り、人の多い横芝町も、私はいいと思う。けれども、緑がたくさんあって、春、夏、秋、冬といろいろな季節の虫たちの声をきいたりしながら生活できる横芝町が、やっぱり一番いい。

そして、一九九四年の横芝町を写真にとって、自分の子供に見せてあげたいと私は思う。

未来の横芝町

横芝中学校2年
廣瀬　梓さん

横芝は美しい町です。南には青い海、中央部には稲穂の実る一面の水田、北は緑豊かな杉林があります。自然に恵まれ、冬でも温暖な横芝は、古くから、人間が住むには絶好の土地だったのでしょう。殿塚、姫塚や姥山貝塚など、古代の人々の生活の足跡が、至る所に残されていますし、伊能忠敬や海保漁村など、文化人にも非常にゆかりの深い場所です。二十世紀に住む私達にとっても、横芝町は大変暮らしやすい町です。

けれど、不便な点や問題点もいくつかあります。交通が整備されていないので、千葉や東京へ出るのに時間がかかります。バスの本数がとても少ないので、必然的に車で移動することが多くなってしまいます。

町の特色が薄いこともあげられます。観光の町になるのは海水浴シーズンの夏だけですし、それも、外房や内房の海岸に比べるとやや見劣りします。都心への距離と時間を考えると、ベッドタウンにするのにも無理があるように思われます。

しかし、これらの問題も、徐々に明るい方向へ向かっているようです。東金有料道路の延伸工事が進められており、横芝から千葉までが一本の道路で結ばれるようになります。また、買物の場も増え、私の母は「大変便利になった」と喜んでいます。

八月に行われる花火大会は、町内のみならず、近くの市町村、帰省している都市部の人たちや海水浴客を集めて年々盛大になり、町の目玉となりました。坂田池周辺の整備も進んでおり、アスレチックや野球場、テニスコートもできるようです。スポーツを通じて、住民のふれあいの場が増えることと思います。

駅前には自転車置場が設置され、放置自転車がすっきりと整理されるようになり、町の顔である駅前が、きれいに保たれています。

横芝から成田までは近いので、空港の需要が増えれば、横芝のもつ役割もどんどん重要になっていきます。空路で輸出される製品の製造や、輸入された原料を加工する工場、航空機関連の部品を造る工場などで、工業団地が必要になれば、そこで働く人のための住宅が建設され、人口も増えるでしょう。人が多くなれば商業にも活気がでてきます。そうなれば交通も便利になるのです。

このように、横芝の未来は明るく輝いています。しかし、開発が進む中で、胸をはって誇ることのできる自然が失われていってはなりません。海は青いままでなければならないし、栗山川にはあふれんばかりの鮭が戻ってこなければならないのです。

二十一世紀の横芝を支えていくのは、若い世代の人間です。この町を生かすも殺すも、ほかならぬ私たちの肩にかかっているのです。けれど、むずかしく考える必要はないと思います。横芝の未来を支えるもの、それは、美しい横芝を愛する心なのですから。